



同行者同士のA 福井県発足 投げ出した合併

金融ショックに備えて、全国の農協は先を争うように大型合併を進めているが、合併が“万能薬”ではない。事実、県域で合併した複数の大型農協が赤字に沈んでいる。

マイナス金利政策の影響で減益額の大きさに戦慄した農協が、規模を追うだけの成長戦略なき合併。

支店が統廃合され農協と農家との距離が遠くなる、農家への細やかなサービスができない、農業関連事業が伸び悩む…、戦略なき規模拡大は農協経営の安定に直結しない。

組合員10万4052人のための農協合併でなければ意味がない。

生き残りがかかる農協

農協に何も期待していないと言いつつ組合員。

先祖伝来の田畑を守るか不安を抱える高齢者組合員。組合員である必要がなくなったと農協を脱退する農家。

コメも資材も農協を一切頼らない専業農家。

「JA福井県」に未来はあるのか――。

「JA福井県」船出に暗雲 すでにナンバー2争い勃発中

JA福井県誕生が目前に迫っても組合長選に名乗りをあげる動きはない。なぜ田波俊明五連会長が初代組合長に適任なのか疑問は一向に晴れず、前組合長に聞いた。

「誰も規模の小さな農協長の田波さんが良いとは思って

いないだろう。全農の70歳定

年制をそのまま県連にもつて

きているので、就任時に70歳

か、それ以下でなければ手を

あげられない。規模の大きい

JA福井市の寺井敏高氏もJ

A花咲ふくいの富田勇一氏も

70歳を過ぎていて。強いて言

4月1日に県内の10JAが合併し、「JA福井県」が発足する。これまで本誌は、なぜ合併が必要なのか、田波俊明初代組合長ありきなのか、他に有能な人材はいないのかなど、様々な観点から関係各所を取材し特集を組んできたが、今回の農協大合併に成長戦略が見えず、何のための合併か疑問は拭えない。

えば、JAたんなんの牧野正男氏が67歳だが、まだ1期目」。

定年制を理由に、初代組合長は田波氏に決まり……。それでも、福井市や花咲ふくいの

組合員は乗っ取られるのではないかと懸念は消えない。

それ以前に不可解なのは、規模の小さい敦賀美方農協の

田波氏が、県五連の副会長に

納まったことだ。2014年7月、山田俊臣県連会長が任

期中中で引退すると、田波氏

がエスカレーター式で副会長から会長に、これも年齢か。

2016年再選、2019年3選と無投票で再選する。

これを県内の農協は抵抗することなく承認してきた。歴

代五連会長のように田波氏が

人格頭脳ともに秀でてい

るから納得もできようが、反社との付き合いも噂される田波氏

のトップを拒否する声が表示

して挙がらなかった。これは

本県農協界の能力不足、人材

10JAトップの略歴一覧

	名称	名前	就任	年齢	略歴
福井市	経営管理 委員会 会長	寺井 敏高	2018.4 1期目	71歳	名城大卒、県警退職、2009年からJA管理委員、認定農業者
福井市南部	経営管理 委員会 会長	西尾 宗雄	2018.3 1期目	72歳	福井大卒、日本道路公団勤務、いけぶ農事組合理事、経営管理委員、同副会長
永平寺	代表理事 組合長	鈴木喜代宏	2015.4 2期目	73歳	東洋大卒、2004年9月から旧上志比村長、06年から組合長1期
花咲ふくい	代表理事 組合長	富田 勇一	2012.4 3期目	71歳	滋賀県立短大農業部卒、県農協中央会、JA花咲ふくい勤務、09年から理事1期
はるえ	代表理事 組合長	有田 正信	2017.4 1期目	71歳	福井クボタ（旧松田商会）勤務、同農協非常勤理事
テラル越前	代表理事 組合長	林 信一	2018.4 1期目	66歳	県立大大学院博士前期課程修了、2012年から農協常勤監事1期、17年から日本政策金融公庫の農業相談員
たんなん	代表理事 組合長	牧野 正男	2017.4 1期目	67歳	名古屋商科大卒、2011年から農協代表理事専務2期
越前丹生	代表理事 組合長	樋村 昌宏	2017.4 1期目	67歳	県立農業短期大卒、2008年から農協専務理事
敦賀美方	代表理事 組合長	田波 俊明	2012.4 3期目	68歳	中卒、2007年から敦賀市農協組合長、敦賀美方農協組合長、五連副会長、14年から五連会長
若狭	代表理事 組合長	宮田 幸一	2014.4 2期目	68歳	若狭農林高卒、上中町農協入組、2006年からJA若狭参事、09年から同専務理事

不足の何物でもない。
JA一本化は、唐突に行われたわけではない。2016年に田波氏が再選するや1県1農協を明言、「一本化」について議論が交わされてきたにも関わらず、各農協は改選時に合併初代組合長選に名乗りを挙げる人物を組合長に選ぶとはしなかった。乗っ取られると不安があるなら、任期中にでも組合長改選をして、新組合長候補を選ぶべきだった。昨年の合併予備契約前に、10JAを3つぐらいに合併するなど、もっと違った選択肢はなかったのか。

すべては後の祭り。「経営困難の原因はゼロ金利。金融依存から脱却するためには、農協一本化しかない」を建て前に、「投資をしても利益が上がらず、3年後、5年後には経営が赤字になる。回避するには合併しかない」。これが、今回の大合併の本音。先が行き詰るから合併する。まさに

特集 生き残りがかかる農協

投げ出した合併”である。合併すれば農協の、農業の未来が明るくなるのかと危惧する組合員の気持ちなど知る由もない。

兎にも角にも、4月1日に「JA福井県」はスタートする。組合員の心配など他所に、田波氏の新組合長就任は動かしようもない。貯金や資金貸付業務を行う信用事業、野菜や米など農畜産物を扱う販売事業、肥料・農薬・生活用品等を扱う購買事業、保険業務を行う共済事業を兼営するほか、葬祭事業、介護福祉事業にAコープなど「ゆりかごから墓場まで」、一大総合商社の船出だ。それに伴う納入業者



田波俊明 JA五連会長

【単位：千円】

花咲ふくい	はるえ	テラル越前	たんなん	越前丹生	敦賀美方	若狭
359,894	23,860	97,195	39,598	51,602	88,689	76,335
364,959	39,459	180,296	88,314	81,725	△131,110	△40,383
80,463	17,414	65,460	22,376	40,898	58,614	57,959
327,095	61,477	—	290,691	127,013	205,448	188,854
				36,184		
407,559	78,891	65,460	313,067	204,096	264,062	246,813
	2,015			4,906	277,667	251,927
772,518	120,365	245,757	401,381	290,728	410,619	458,358
730,768	110,457	145,684	345,248	248,213	239,105	395,455
75,000	8,000	40,000	20,000	16,500		
400,000	61,477	20,000	290,691	128,000	205,449	55,000
		20,000				295,000
		13,822			14,367	
90,182	17,480	51,862	27,138	30,713	19,289	45,455
3.0%	3.0%	2.0%	1.0%	3.0%	1.7%	3.0%
165,586	23,500		7,419	73,000		
41,749	9,908	100,073	56,134	42,515	171,514	62,903

や委託業者など恩恵を受けている事業者は数知れず、新農協発足後も継続させていたただくには、田波氏から外されるわけにはいかない。

すでに、新組合長に就任する田波氏は、自己の思い通りの人事体制を敷こうと考えを巡らせていて、各農協協長は田波氏の側近、新農協ナンバークラスに躍起とか。常勤役員と非常勤役員では懐に入る金額が大きく違う。まさに「椅子取りゲーム」に必死というから情けない。

権力を笠に着てやりたい放題の田波氏。2月にJA越前丹生では樋村昌宏組合長が今期で引退を表明し、15対5で新組合長が選ばれたが、反対派が田波氏に「新組合長は経済連を通さずコメを売った」と告げ口すると田波氏が横やりを入れ、役員会は揉めにもめ、組合長選はやり直しになった。これでは、先が思いやられる。

各JA「令和元年度剰余金処分案」

	福井市	福井市南部	永平寺
事業利益	120,403	23,646	16,561
当期剰余金 ①	△477,639	55,408	34,341
当期首繰越剰余金 ②	16,801	21,223	3,832
会計方針の変更による累積的影響額 ③	436,180	56,995	57,666
過去誤謬の訂正による影響額 ③´		29,413	
遡及処理後当期首繰越剰余金 ④=②+③	452,981	107,632	61,499
目的積立金取崩額 ⑤	605,000		
当期末処分剰余金 ⑥=①+④+⑤	580,342	163,041	95,841

剰余金処分案	剰余金処分額	570,187	139,456	91,688
	(1)利益準備金		12,000	19,500
	(2)任意積立金等への積立			
	リスク管理積立金	350,000	30,000	47,000
	施設整備積立金		70,000	5,000
	IT関連積立金			10,000
	税効果積立金	18,035	5,867	4,590
	特別積立金	90,000		
	(3)出資配当	112,151	16,272	5,598
	(配当率)	3.0%	3.0%	1.5%
	(4)事業分量配当		5,315	
次期繰越剰余金	10,155	23,585	4,153	